

プレスリリース

2023年7月25日
国境なき医師団 (MSF)

ソマリア：北部の病院から苦渋の撤退——医療施設に対する度重なる攻撃受け

国境なき医師団 (MSF) は、ソマリア北部スール州のラス・アノド総合病院 (※) から撤退するという困難な決断を下した。同地では、医療施設に対する攻撃が繰り返され、極度の暴力、治安の悪化は、患者や医療スタッフの安全を脅かし、これ以上の活動継続は困難だと判断したためだ。

病院への攻撃、半年で 5 回

同病院は 7 月 8 日、戦闘のさなかに攻撃を受け、医療スタッフや患者の世話人が負傷。また、救急車が破壊され、産科病棟は閉鎖を余儀なくされた。これは、今年 2 月に暴力が激化して以来 5 回目の事件であり、これまでも医療スタッフやボランティアの命が奪われてきた。

ソマリアで MSF の代表を務めるダナ・クラウゼは、「紛争が続く中、既に失われている人びとの医療アクセスにさらに影響を与えることを承知で、活動を中止せざるを得ないことを大変残念に思います。しかし私たちは、患者と医療従事者にとって最低限の安全が確保された環境で活動する必要があります」と述べる。

MSF は 2019 年から、ラス・アノド総合病院への物資提供や技術指導、スタッフの給与支援、子どもたちの栄養失調の診断や病気の治療を行ってきた。昨年だけでも 7200 件以上の緊急診療を実施し、2000 件以上の分娩を介助した。しかし残念ながら今週、戦傷者の治療キットなど最後の医薬品の寄付を行った。

医療活動の継続に、安全の確保は必須

ラス・アノド総合病院での活動を終了する一方で、同病院から約 40 キロ南に位置するスール州カラバイドでの避難民に対する医療活動は継続する。

過去 40 年にわたりソマリアの人道危機に対応してきた MSF は、今後も普遍的な医の倫理と人道援助を受ける権利の名の下に、中立性と公平性を守りながら活動を続けていくことを改めて表明する。しかしそのためには、MSF の職務遂行において、完全かつ妨げられることのない自由を主張する。

※スール州とラス・アノドは、ソマリアの国際的に承認された国境内にある自治国家であるプントランド


とソマリランド双方が領有権を主張する地域。本書の記述や地名は、それらの法的地位に関する MSF の見解を反映したものではない。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂
携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press